

地区米山奨学委員会
大阪東淀RC

日 時：平成20年7月5日（土）14：00～16：00

場 所：ガバナー事務所

参加者：近藤PG（米山記念奨学会常務理事）、笠原委員長、
村橋副委員長、北川副委員長、青木、石山、稲邑、米田、
武島、磯田 各委員

大阪大学、大阪教育大学、大阪経済大学、大阪工業大学、
大阪産業大学、関西外国語大学、大阪商業大学、関西大学、
大阪国際大学、（独）日本学生支援機構大阪日本語教育セ
ンター

委員 磯田 郁子

今回で3度目になる（昨年度は実施せず）
地区米山奨学委員会と大学等との地区懇談会
を7月5日に開催しました。2009年度の米山
奨学生を選考するにあたり、17の指定校（7校
は欠席）から10校12名の担当者にご出席頂
きました。

はじめに近藤PGからロータリー米山奨学
生には、どんな学生を推薦して欲しいのか、
や昨年度から始まった現地採用（一昨年度、
昨年度はベトナム）についてなどの話があり
ました。続いて笠原委員長より米山奨学生に
は日本と母国との架け橋となってくれる人物
を採用したいのでそのような学生を推薦して
欲しいという推薦校へのお願いがありました。
次に村橋副委員長から米山記念奨学金の趣旨
や制度についての説明をPower pointを用いて
行われました。

その後、質疑応答では「中国人学生は応募
してはいけないと思っていたが違うのか」「月
1回の例会に授業の関係で出られない場合はど
うしたらよいのか」「カウンセラー制度とい
うのはどのような制度か」「ロータリアンと
いうのはどんな人になるのか」など様々な質
問が学校側から出されました。また各大学と
も他の奨学金制度と違って米山奨学金制度に
は成績に加えて人物を重視し選考しているとい
うお話でした。

最後に笠原委員長から「日本を理解し、ロ
ータリーを理解しようとする人物、異文化を
理解しようとし日本語でコミュニケーション
の取れる人物がこの奨学制度にはふさわしい。
以前と違って大学推薦の制度になってからは
本当に優秀な学生が応募してくれるようにな
っている。奨学金の終了後もロータリーや学
友会と連絡を絶やさないようにして欲しい。」
などの話がありました。

大学側にとっても地区米山奨学委員会にと
っても非常に有意義な懇談会となりました。

